第３回稲美町総合計画審議会　議事録

１　日　時　　令和３年３月 30 日（火）10：00～11：50

２　場　所　　役場新館４階　コミュニティセンターホール

３　出席者

委　員　　田端会長、福井副会長、本多委員、高橋委員、西澤委員、佐和田委員、中本委員、佐藤委員、岩本委員、坂田委員、山谷委員、大野委員、下阪委員、大前委員

行　政　　本岡利章、遠藤孝明、増田秀樹、沼田弘

事務局　　藤田浩之、井上勝詞、赤松嘉彦、丸山善之、穴田雄暉、コンサルタント１名

４　会議の概要

１　開　会

・事務局より、資料の確認

２　会長あいさつ

会　　長：年度末の忙しい時期にお集まりいただきありがとうございます。先程ご紹介がありましたように、前回の会議は書面開催で、対面は 11 月の第１回会議以来かと思いますが、協議を進めていきたいと思っております。前回までに考え方や方向性のポイントについては話をいただいているが、いよいよこれからは政策部分をどう考えていくのか、次の時代を考える上でどういったことが必要になるかということが、みなさんの忌憚のないご意見をお聞きしたいと思っておりますので、よろしくお願いします。

３　審議事項

（１）序論について

・事務局より、序論の説明

（質疑応答）

会　　長：書面会議の意見と修正点。意見や今気づいた点について。

委　　員：２か所ある。１ページ目、「新型コロナウイルス感染症の拡大」と個別名称が入っているが、10 年後までコロナのことが続いているのかわからないということを考えると、「予期せぬ感染症の蔓延」とか、個別名称は入れないほうが良いのでは。７ページ（５）、南海トラフ等の災害発生時に速やかな避難行動につながる取り組みとあるが、稲美町で地震が起こった時、津波は来ないので、速やかな安全確保の行動などの表現でどうか。

事 務 局：まず、１点目です。感染症については、今後起こること、施策で取り組むことの内容では感染症という表現を使っていますが、すでに起っていることは新型コロナウイルスとした方がイメージしやすいということで、この表現にしています。２点目の避難行動には、すぐに逃げることではなく安全を確保する、家の中で安全な場所に避難するという

意味も含まれていると思いますので、この表現にしたいと考えます。

会　　長：よろしいか。避難行動イコール身を守る行動であると解釈している。

委　　員：新型コロナウイルス感染症の拡大、良いと思うが、今後のことも含めて、新型コロナウイルス“等”感染症の拡大の方が良いのでは。

会　　長：先々のことも記載されているので、単純にあったことだけではなく、他の委員の指摘も含めて再検討をしてください。

事 務 局：議会からの意見としては、スマート農業の話が出ています。４ページ４番の経済・産業・労働のところです。将来のことも考えてはどうかということで、スマート農業という項目を追加してはどうかという話です。もう１点、５ページ、産業等のところです。稲美町は農業を基幹産業としている表現ですが、所得ベースでいうと農業の収入は少ないという意見です。町として景観を維持していた話であったり、整備に関する分野の意図もあるので、基幹産業としていますと回答させていただいています。

会　　長：ご意見がなければ次に進みたいと思います。

（２）基本構想（案）について

・事務局より、追加資料の説明

（質疑応答）

会　　長：今、基本理念の言葉があったが、これが 10 年間の方針となる。資料１－２にこれまでの基本理念があるが、見ていただいたらわかると思うが、町の政策方針の色が濃い。例えば、暮らしや福祉のまちづくり、自然と調和等。第５次総合計画は環境の部分が強調されている。今回は「ともにつくる」という、単なる町の政策方針だけでなく、皆さんと一緒に作っていくというところ。「未来へつなぐ」はＳＤＧｓの達成を恐らく想定している。これまでと基本理念が異なると思う、みんなとどう町を作っていくか、という理念。賛否を問うわけではないが、考え方については共通理解を。これから 10 年間何が起きるか分からない時代なので、町だけでは対応できないことがたくさん出てくる。だからこそ皆さんと一緒に、せっかくなら環境を維持できるような、将来の責任を果たしていくようなスタンス。その点をご理解、共有いただいてから構想や政策の話に。

委　　員：今回のテーマが、前回の第５次総合計画を読み返して比べると、あんまり変わらない。今回のまちづくり、目標として、何がしたいのかを事務局にお聞きしたい。例えば、基本目標は５つあるが、前と一緒。これでは具体的なことが分からないので、イメージがわかない。地方自治体に適しているかどうかわからないが、もう少しとがった目標を。今までと変わらない目標を 10 年間しても何が変わるのか。稲美町の特色を生かした目標、ため池がたくさんあっても綺麗なだけでは駄目で、もっとそれをいろんなことに利用できないか等。コロナの問題は別にして、災害が大型化して地域によって被害もある。稲美町は被害が少ない。ため池がたくさんあれば、雨が降った際のクッションになる。例えば、将来南海トラフ地震があって兵庫県の沿岸部が被害を受けた時に、稲美町が受け皿になる。安全・安心なまちとして、そういったとがった目標を。

会　　長：総合計画はまちづくりの基本方針ということもあるので、そのあたりを踏まえてのご意見。事務局としての意見があれば。

事 務 局：第６次総合計画の考え方ですが、骨組みは基本的に変えていません。我々が 10 年間やってきた事業を今後の 10 年も継続していきたいという思いがあります。総合計画で書く内容は、それぞれ、災害、公共施設、福祉等、全ての隅々まで行き届くような計画にはならないと考えています。本日お示しした基本構想は抽象的なざっくりしたもの、その下の基本計画にはもう少し具体的なもの、さらに下の個別計画で、災害であれば災害の個別計画を作っている。総合計画は抽象的なものになるが、基本的に 10 年間やってきた事業を継続したいということをご理解いただきたいと思います。

会　　長：骨組みは全般的なもので仕方ないと思うが、第５次総合計画と比べて第６次総合計画の特長があれば、そこをお示しいただいたらどうか。追加資料の裏面、基本理念、目標、施策があり、その先には子育て、障がい者、高齢者等の福祉の問題、教育の問題等がある。このどれか１つだけ取り上げるわけにはいかないが、今回は何の特長があるのか、将来が読みにくい時代だからこそ、稲美町の特長を生かして計画を作っていることが見えてくれば、特長がはっきりするのではないかと思う。

事 務 局：今回と前回の違うところは、人口の考え方です。10 年前と比べると人口減少が顕著に見えてくるので、いかに維持していくか。まず稲美町の特長を生かした都市近郊型。都会でもないが田舎過ぎないという特長を生かして人口をどう維持していくかが今回の計画の特長になると思います。追加資料の１番上に総合戦略を入れています。総合戦略とは、人口をいかに維持していこうかということです。総合計画と同時に、総合戦略を合わせながら町の活力を維持していきたいと考えています。また、ＳＤＧｓの持続可能なまちづくりをどう表現するかが今後の課題となります。

委　　員：今言っていた人口のことは、基本目標の中に何か書いているのか。何を目指しているのかというのは、人口維持が一番になるのか。

事 務 局：資料２の３ページの人口のところで人口維持を大前提にして作っていきたいと考えます。

委　　員：例えば、行政と各企業の目標の立て方は違う。各企業の目標の立て方は、売り上げをいくらにするかの目標を立て、そのためのこういった施策をするというように、ものすごくはっきりしている。目標がはっきりしていると、社員が目標に向かって動ける。町の場合は、人口３万人といっても住民が何かできることもない。人口が大きな目標であれば人口のことを取り上げて、達成するためにどんなことができるかをもう少し書いた方が良い。各項目全部を平等に書くと何が重要かわからないので、ウエイト付けが必要だと思う。

会　　長：目標を達成するためのストーリーが見えないのではないかという意見だと思うが、どうか。

委　　員：反論するわけではないが、災害が起きたときは、それぞれの自治体の中で共助・公助をする。それを稲美町が受け皿になる必要があるのか。それは、それぞれの自治体が復旧・復興し、県、国が支援をしていく。ため池の話だが、前回も言ったが、全部を網羅する必要はない。今、農業に関わるため池の維持管理が非常に難しくなってきている。少子高齢化の中で農業の担い手が今や 70 歳代。歴史的なものがあっても、ここに個別具体的なことを書く必要があるのか。

会　　長：最初の委員のご発言では、恐らく、稲美町は災害が少ないから、災害が多いところに住

むよりもここに住んでという意図だったと思うので、災害時にどうかということではないと思う。個別のことは、総合計画では書けない。ポテンシャルを維持するために何ができるのか、何をするのか、見えてこないという意見だと思う。実際に災害が起きたときはおっしゃるように各自治体と、兵庫県は三木市に中心になるところがあるので、そこが対応していく。稲美町の持っているポテンシャルを生かしてどう人口を増やすか、例えば、災害が少ないということをもっとキーワードにして考えていこう、ということをおっしゃりたいのだと思う。

総合計画は全般的に、「総合的に」やらなければいけない。人口問題の話は総合戦略で、こういうことをすると人口がこれだけ増えると、企業の目標に近い形で詳しくやっている。総合計画はそれとは別で、町全体のポテンシャルをどう維持するのか。そのポテンシャルの中には今生活している方のＱＯＬ、つまり住みやすいと思ってもらうことが中心となる。今回の理念は、自然豊かや福祉のまちづくりだけではなくて、みんなでこの町を維持していくことが今後 10 年間の方向ということをご理解いただきたい。どこを強調するというのは難しいので、どういうストーリーがあるのかについて、人口維持のストーリーは総合戦略で書かれているので、そことこの計画の関係はもう少し説明を事務局からお願いしたい。

事 務 局：本日の追加資料や序論の三角形の図で表現しています。総合計画は下に行けば行くほど具体的な目標になっています。一方で総合戦略は人口減少と東京一極集中の打開の２点について取り組んでいます。人口の将来ビジョンに特化して、５年、10 年よりもっと長期的なビジョンをみて、具体的な施策に取り組んでおり、それを総合計画の一部分として抽出しています。例えば、人口に影響すると言われる子育て支援、結婚の支援、住宅の宅地の開発等。

会　　長：そういう位置づけということでよろしいか。理念には反対はないと思うが、それを実現するための政策等の話でまた意見が出るかと思う。

・事務局より、施策の体系について説明

（質疑応答）

会　　長：基本理念から基本目標をどう考えるか。ＳＤＧｓという言葉が出てきて、聞いたことがあると思うが、多くの企業でもＳＤＧｓを見据えて企業計画を作っている。紙を減らす、ジェンダーバランスをどう考えていくのか等、目標を達成するためにチャレンジしている。町だけでできるわけではなくて、住民の皆さんと一緒に作っていかないといけない。ＳＤＧｓの目標は「誰も取り残さない」ということなので、みなさんで一緒にやるということがＳＤＧｓとの関わりになる。

委　　員：先ほどまでの話を聞いていて、津波が稲美町にはこないという話はあったが、40mならくる可能性がある。そうなると地域に応援を派遣したくてもできない。108 あったため池も今は 88 となっている。人の財産には行政は手を出せないので、町がどうこうもできない。そこをうまく踏まえて施策を、全体が良くなるようにこうしたらどうかという提言をしてはどうか。

会　　長：事務局は理念、目標、施策という順番を考えていると思うが、皆さんは施策はこういう

ことが必要だというところをフィードバックできるように整理してほしいということ。上から順番だけでなく、下からも見直しを。災害の話が出たが、想定以上のことが起こるのではないかということを踏まえて政策を考えるという視点。それぞれ関心の違いがあると思う。施策の部分での指摘でも構わない。災害に強いまちを目指して、少ないまちと大前提としてお考えがあれば。

事 務 局：総合計画には大きく書いていますが、個別計画としては稲美町地域防災計画があります。その中で条件、被害想定を記載しています。稲美町は一番低いところで22m、一番心配される地域は中一色。津波に関しては稲美町の中では想定はしていません。ただ草谷断層もあるので、そういった心配については皆さんにお伝えしています。災害時には稲美町だけでは対応できないのでいろんな機関と協定を進めており、万全の対策をとっています。

会　　長：他に何か。関心ごとの部分で構わないと思うので、意見、感想を。

委　　員：基本理念は個人的には気に入っていて、ゴロが良いし、覚えやすい。基本目標１から５とあるが、１番から順番に重要度が高いという印象を受けてしまう。緑豊かな自然、誰もが健やかに暮らせる、４つ目に活力のあるまちが出てくる。稲美町の長所が緑豊か等、短所が働く環境とか交通の便。短所を補うことで「ともにつくる、未来へつなぐ稲美町」もできると思う。労働環境を改善して「未来へつなぐ」となると、農地の転用、空き地利用、スマート農業も図っていくと思うが、農業と経済は相反するところがあるが、それは個別政策で話をさせてもらえれば。基本理念は会長がおっしゃったように、「ともにつくる」、不確定な世の中をみんなで考えていこうというというところで前回と大きく変わっていると思う。

会　　長：基本理念は、これからの時代に合うのではないか。経済は基本目標の４番目となっていて、これから人口を維持していこうと思うと働く場所、ＳＤＧｓにも「働きがいも経済成長も」とあるが、このあたりはどうなのかという意見。

事 務 局：基本目標１～５は重要度が高い順番と見えてしまうかもしれないが、特にその重要度はなく、全て同じテーブルでこの計画を作っています。決して優先順位ではありません。そういった考え方ではないことだけ、お願いします。

委　　員：私自身が農業で自営業をしており、加古川に住んでいる。実家は稲美町の西和田。中学まで稲美町、高校から加古川、大学で滋賀県。帰ってきて思うのはのどかでいいところだということと、今子どもが２人で０歳と３歳、稲美町は過ごしやすいし、土地の価格が安いので、広めの家に住みたいと思う時には稲美町は選択肢に入ってくるが、仕事はどうするのか、通勤・通学となると加古川が便利というのが正直なところ。基本目標２の「誰もが健やかに地域で暮らせるまち」は本当にその通り。過ごしやすいのは大事だと思うが、稲美町の直売所で、子育ても終わって年金ももらっていて、物が売れればいいので値段を下げる。それで生活していく人が同じフィールドで戦えるかというと、正直勝負できない。立派な直売所を増やして、農家の人を増やそうという考え方は分かるが、やっている本人からすると難しいのでは。成り立つかどうかとは話が別。誰もが納得して暮らせるのは大事だと思うが、世代に応じて必要なことは変わってくると思うので、ある程度切り分けて考えていくことが大切。

会　　長：現場にいないと分からない課題だと思う。農業の市場システム、稲美町の農業は市場システムと別のところでも動いていて、市場にも影響を与えている。産業として農業を成り立たせるためには興味深い意見。

委　　員：スポーツ推進員から来た。稲美町の方は個々にスポーツを推進されていたりするが、子どもから大人まで、スポーツに親しんでいる。健康面への関心も高く長寿でおられるが、真ん中の世代、働いている世代、壮年期は関心が薄い。総合計画の中にも入ってくると思うが、そのあたりの世代もスポーツを親しめる状態にしていきたい。

委　　員：民生委員になるまでは施策を知らなかった。サラリーマン時代は広報を見る機会や関心がなかった。大事なことは、これをいかに住民に知ってもらうか。いい案が地域の人に利用されていないと感じる。私達も研修を受けて地域の人へのＰＲに取り組んでいるが、やはりプロではないので最後には行政にお願いすることになる。良い内容をいかに知ってもらうか、に取り組んでもらいたい。

会　　長：同意。先程言っていた「ともに」がキーワードとなっていて、町民に理解してもらわないといけない。いかに内容を理解してもらうか。たいていの場合は冊子ができて、概要版を全戸配布で終わってしまう。そうすると身につかないし、「ともに」がうまく動かない。ＳＤＧｓを初めて聞く人も少なくないので、町民の皆さんに伝えていく。どの自治体も同じ課題を抱えていると思う。町の計画で良かったものが、まちづくりの方針となる。伝えていくことの重要性は常に考えてもらいたい。

委　　員：長いこと関わっているが人口 35,000 人を当初言っていたが、今は 31,000 人。妊娠・出産、子育てができる施策をいろいろとやっていることを知っているが、なかなか人口が増えない。これから先 10 年、私たちもどうなるかわからないので、しっかりやっていただきたい。若いお母さんが最近は料理ができない、疲れていると言う。昔は手作りで子ども達や家族にという方針でやっていたが、時代に沿って変えていかないといけない。お母さんだけでなく男性ももう少し手伝ったりとか、考え方を変えていかないと、この先「ともにつくる」ということで、男女共同でしていかなければと感じた。女性が社会進出できるようになれば良いと思う。町の出席者に女性がいない。女性も十分に働ける稲美町であってほしい。

会　　長：ＳＤＧｓの５番目の目標で、行政も取り組まないといけない。男女共同参画の表現が十分でないところがあると思うのでそこは検討を。

委　　員：保育園で子育て支援している。基本理念の「ともにつくる」は良い言葉だと思う。保育園でも同じような目標で、子ども、職員、保護者とも一緒に取り組んでおり、町が同じ方向でやっていることはありがたい。何十年も前であれば国が言うことをそのまましておけば安心して暮らせる世の中だったかもしれないが、今は国も放置していると見受けられて、自分達で好きにやってくれと、保育園としてはそういう状況。私は明石市なのだが、市長を筆頭に非常に活性化してきている。稲美町にいる時間の方が長いが、明石市の活性化、人口増施策が目に見えてわかるほどの勢いで進んでいる。稲美町もとても素晴らしい地域なので、それぞれの専門分野がつながっていい方向へいくといい。

会　　長：「ともにつくる」はこれからの方針として必要。つながる、という言葉が出ていた。どうネットワークをどう組むか、どう関りを持っていくか、これからの議論で深めていきた

い。

委　　員：農業の関係で、農業ひとつとっても、次世代、担い手がいない。担い手がいないということは、それぞれの分野でも同じ状況ではないか。それに対して行政でどう進めていくかリーダーシップを発揮していかないといけないが、地域の中で考える、考えていく方向を示さなければならないのでは。

会　　長：地域はどのくらいのエリアを想定しているか。

委　　員：営農組合や、地域の中で農業以外の職でも農業に関心がある者。横断的なことをしなければ。私は農業関連で言っているがその他でも出てくるのではないか。

会　　長：地域は極めて重要な言葉。大きめの地域の想定が多いが、もう少し小さなエリアも想定しないと、これからの話し合いが上手くいかないかもしれない。

委　　員：基本理念は簡潔で分かりやすい。ＳＤＧｓは小中学校の授業の中でも少しずつ取り上げられていて、新しい風が吹いていると感じる。

委　　員：アンケートの満足している点は良いが、不満となっている点についてどうしていくのか。例えば、地域における交通手段の確保はまちの重要度の上位にきているが、この中に反映されていない。アンケート結果についてどう反映されるのか、

事 務 局：アンケートについては、評価いただいたところは伸ばしていきます。不満のあるところ、例えば、公共交通について、稲美町は先程言われたように駅から遠い、国道がない等特異な場所のため、アンケートを取れば毎回不満はあがってきています。その中でどうすれば、今後高齢化を迎える中で地域の公共交通をまわしていけるか、地域バスやタクシー業者とも話をしながら模索しているところです。今、デマンド型乗り合いタクシーも走らせています。我々のＰＲ不足もあり全般的にいきわたっていないので、そういったところも含めて前向きに公共交通に取り組んでいきたいと思います。令和３年に総合計画とは別に公共交通に関する大きな計画を作り、住民にどういったニーズがあるのか、公共交通に特化したアンケートを取りながら進めていきます。この計画では一言入っている程度であっても、それにぶら下がったものがたくさん出てくるというイメージでこの計画を作っていきたいと考えます。

会　　長：施策レベルが多くなる。不便さはアンケートでなくても常に出てくるので、もう少し取り上げてもという気持ちは分からないこともない。重要視しても良いのでは。

委　　員：交通手段としては別にする。人口問題も別に。総合計画はすべて網羅していないといけないが、公共交通はすごく大事だと思うので、なぜここに入れないのかと思う。各施策はつながらないといけないと思う。全部バラバラでは効果はあまり出ないのでは。

事 務 局：資料２の９ページの（３）、公共交通の部分はここに書いています。バス路線の維持確保や公共交通の充実について書いていて、先程会長が言ったように今から各施策に取り組んでいく計画を作っていきます。

会　　長：だからこそ、この場がある。どんどんご指摘をいただければ。

委　　員：いろんな意見を聞いて、大変勉強になった。社会福祉審議会でも地域の中で独りぼっちをつくらないというコンセプトを掲げてやっている。町全体が「ともに」と「つなぐ」をキーワードとして動いていくことは今の時代すごく大事なこと。ただ、地域住民一人ひとりが自覚をして取り組み、地域の人の行動が変わらないと目標が実現できない。例

えば、企業だと脱炭素参加へのインセンティブがあるが、住民が取り組んでいくためのインセンティブはないのか。交通、その他いろいろあるが、インターネットのインフラを町内全部に整備することでオンライン診療が可能になれば、バスに乗っていかなくても医者の診療が受けられたり、２拠点生活、１か所に住まなくても季節によって住む場所を変えたりしている若い人達もいると聞いている。それの前提にも、ネット環境。基本理念として町を活性化させるデジタルの基盤整備はどこに入るのか。

会　　長：社会福祉協議会でも地域福祉推進計画を作っている。ＳＤＧｓの理念（誰も取り残さない）に基づいた指摘。ＳＤＧｓを進めるにあたって企業は売り上げやインセンティブがあるが、一般人は、今大きな災害が起こっているが、自分達が出したCO_2が影響を与えているとはなかなか自覚ができないところから、行動と変容につながらない。デジタルの話は質問だったが、どうか。

事 務 局：資料２の 14 ページのデジタル機器を利用した情報化のところです。総合計画自体は国に縛られたものではなくなってきていますが、別で総合戦略という計画があります。その見直しの中で国からこういう視点を入れなさいという項目があり、それがＳＤＧｓとデジタル化の話。総合計画を作る中でも必要になるので、これから視点を入れていきます。

会　　長：行政もデジタル化だが、それ以外にも 12 ページの子どものところでＩＣＴ、情報に基づく教育のルールとあるが、スマート農業、多拠点型居住に向けた仕事場づくりなどは出てきていないので検討していただきたい。医療分野でも「誰もがすこやかに暮らせるまち」というところにも、本来デジタルのところが入っていてもいいかと思うが入っていないので、これも検討いただきたい。

副 会 長：自治会から来た。65 歳定年となり、ほとんどの人が 65～70 歳まで働いている。老人会に入る人が減っている。営農組合も 70 歳代が一番若手なのが現状。農業環境、農業基盤の整備、ため池等載っているが、いつまでもハード面ばかり。困っているのは農業経営の安定。もっとソフト面の改良ができるのでは。また、非常に難しい言葉も出てきている。スマート農業とは何か、ピンと来ない人もたくさんいる。もっと誰にもわかりやすい言葉にできないかと感じた。

会　　長：人がキーワードになる。事務局から、何かないか。

事 務 局：農業基盤はほとんどそろっており、後はため池等言われている通りだと思います。担い手の確保も大事だと思っています。委員からいただいた意見は基本計画を作るための大切なキーワードになるので、会議でいただいた意見を検討したいと思います。また、途中退席された委員より先にいただいていた意見になりますが、資料２の６ページの工業地区のところ。稲美町の工業区域をみると南部の市街化区域や北東部の工業集積地という表現をしていますが、今動いているところなのでもう少し表現を変えた方がいいということです。２点目が先程の水資源、農業区域のところ。公益的という言い方を変えた方がいいという意見をいただいているので、そういったところも反映しながら修正していきます。

４　その他

・事務局より、今後のスケジュールについて説明

（質疑応答）

会　　長：日程を決める時期は４月初旬か。

事 務 局：４月初めから中旬までにはある程度時期を決めたいと思っています。

５　閉会